

永松だより

松源寺開創

500年

平成33年・2021年



みなさまのお知恵とお力を合わせていただき この佳きめぐりあわせを寿ぎましょう

大蔵山松源寺三十四世 再重興智賢孝善大和尚

本葬儀



平成二十六年(二〇一四)三月二十日にご逝去された、大蔵山松源寺三十四世再重興智賢孝善大和尚のお通夜と本葬儀が、松源寺において、六月二十六日(木)と六月二十七日(金)に執り行われました。式場は周到に準備されました。本堂須弥壇の右脇に霊壇がもうけられました。さらに本堂の外側となる、須弥壇と対峙する南側に、六方龕をしつらえた祭壇が設置されました。

二十六日。ご遺体を納棺し、お棺を本堂に移動し、お棺に鍵をかけ、お通夜の儀式を行う、四種の佛事が行われ、さらに百か日法要のお通夜の儀式が約三〇名の僧侶により行われました。

二十七日。九時、各佛事師のご到着の『五盃三拜』が行われました。その後、お棺を本祭壇に起こす儀式、葬列を組んで葬場に向かう儀式、が行われました。その葬列の様子は趣深いものでした。ご遺骨とご位牌を中心に、遺影、供物、お花、いわれのある生前使用した法具などの品々とともに一〇本の旗をなびかせながら、斎場の四門(発心門・修行門・菩提門・涅槃門)を経巡るように練り歩くさまは、野

辺の送りの葬列が眼前に凝縮されたように

で、見守る人たちに

とつても、胸に迫るものでした。本葬儀は、須弥壇の両脇に



祭壇



葬列



三導師



松明

県宗務所長、第一教区教区長が臨席します。三人の佛事師が須弥壇に背を向け、祭壇を向いて、並列して座を占めます。はじめに、御本寺輪王寺大方丈から「再重興」の認可が授けられました。蜜湯を捧げ供養し、お茶を捧げ供養し、炬火をとつてお別れする、それぞれの佛事が行われました。そして、弔辞が読み上げられました。同級生太田守さんのお別れの言葉、四〇年間住職として菩提寺を守ってくださいだったことに感謝する永松会会長竹丸寅夫さんの言葉を伺うと、お檀家の皆様にとつて大きな支えであったことが分かります。一八〇席設けた仮設の参拝所も立錫の余地なく埋まり、ご住職のご逝去を悼み、惜しみ、悲しみがにじみ出る風情でした。松源寺現任職東海泰典氏より謝辞が述べられて、本葬儀は終了しました。引き続き百か日法要が執り行われました。

一〇〇名を数える僧侶が一堂に会し、佛弟子としての一人の同志を心から讃え送る姿がありました。梅雨の晴れ間、日差しも戻り、日中は気温も上がりましたが、広瀬川から吹き上げてくる風が、参列者に涼を与え、会堂をさわやかに清め、吹き渡っていました。

(詳細は松源寺ホームページで見ることができます)

さがたず
探訪

松源寺の御縁

第3回

今回は、前号に掲載した結城義親の続きです。そして、その嗣子義綱のお話です。

(前承) 旧主義親仙台の伊達氏に迎えられる、と聞いて大勢の旧臣たちが仙台に来たが、三五〇石の客分では、この旧家臣を養うことはできない。馬上一〇〇人を伊達氏の直臣として取り立ててもらおうことにした。それが班目、河東田、阿刀田、上田などの大藩士の人々である。手元には和知、渡辺、佐藤、遠藤のわずか四名を置いただけである。この家は後々まで白河四人衆といった。また伊達氏の直臣に取立てられた人々は、仙台にそれぞれ屋敷を賜った。

第一回 この人に会う

石川さんと「第九」



石川陸雄さん(八四歳)は、曾祖父から四代にわたる松源寺のお檀家さんです。ご先祖様が田町界隈に住んでいたことが分かっていますので、もつと昔から松源寺とご縁のある可能性もあります。石川さんは「岩沼みんなで歌う第九の会」の会員として現在もステージに立って活躍しています。石川さんと「第九」のご縁を追ってみました。

この一〇〇人を住ませた場所が、昔の百騎丁、すなわち今の東二番丁である。

白川義綱 義親に男子がなかったため、その娘に弟義名(兄義親より先に伊達氏に仕え名取郡植松で千石)の子義綱を迎えて嗣とした。この義綱は父義親のために、土樋の屋敷のなかに松源寺という牌所を建ててその開基となった。この松源寺は今も土樋に在り、義親、義綱の牌所となっている。義綱の義親家督相続は、政宗の命によるものであった。父義親同様、この代もはじめは客分として取り扱われ、禄高五五〇石であった。所領は下真山と、磐井郡東山、西口村の両所である。

(二迫町史 昭和五十一年九月発行)

仙台工業専門学校(SKK)の卒業を翌年に控えた昭和二十四年(一九四九)、石川さんは就職活動の真つ最中でした。そんな中、自分が結核に罹っていることが分かり、就職のすべての可能性は閉じられてしまいました。同年十一月二十日、失意の中の石川さんは、東北大学交響楽団が演奏する、ベートーベン作曲交響曲第九番(合唱付)に出会います。石川さんは初めて体験する「第九」に魂を揺さぶられました。閉ざされた未来を開く大合唱に深く感動し、生きる励ましをうけたのでした。「死ぬまでに一度いいから、自分も歌ってみたい」と。

石川さんが初めて「第九」を聞いてから三〇年の月

日が流れます。昭和五十四年(一九七九)に、仙台フィルハーモニー交響楽団が、初めて「第九」の演奏会を行います。なんと、そこには石川さんが「第九」の合唱団の一員として舞台に立っていたのでした。

その後、昭和六十二年(一九八七)十二月十九日に「岩沼みんなで歌う第九の会」第一回コンサートが開催されます。石川さんはその創立メンバーの一員として尽力します。「岩沼みんなで歌う第九の会」の演奏会は、当初からプロのオーケストラ仙台フィルハーモニー管弦楽団との共演です。これは大きな特徴であり会員にとつての誇りとなっています。

二〇一一年三月十一日に、東日本大震災が起こります。東日本大震災の被害から生き延びる戦いが続いている中、「響け復興の第九」のタイトルを掲げ、岩沼みんなで歌う第九の会は第二五回演奏会を、十二月十八日に開催したのでした。

「岩沼みんなで歌う第九の会」定期演奏会は今年で第二八回を迎えます。石川さんはボケ防止ですよ、とおおらかに笑っておられます。お檀家のご縁ということで、皆様も是非足をお運びください。そして石川さんの雄姿に拍手をお送りください。

◎「岩沼みんなで歌う第九の会」第二八回演奏会ご案内◎
日 時：平成26年12月14日(日) 15時

会 場：岩沼市民会館大ホール
チケット：指定席 3,500円 自由席 3,000円
連絡先：〒989-1242 岩沼市里の杜1-2-45

岩沼市民会館内 電話 0223-23-3450

施食会 (施餓鬼会)

八月十四日(木)午後一時三〇分より盂蘭盆会施食会が行われました。時間前からお檀家の皆様が三々五々ご参集なさいました。お式が始まる時刻にはその数は一二〇名を超え、本堂は満席となりました。この日は、午前中晴れていましたが、午後には陰り気味となりました。それでも気温は三〇度に迫る暑い一日でした。ご高齢の皆様や暑さに弱い方の為に、永松閣には大型スクリーンを用意して冷房を利かせて用意していました。



施食棚



施食会法要

の僧侶の皆様によるお勤めでした。お式を終えた皆様の中には、そのままお墓に詣でられる皆様も多く、墓所のそこかしこにはお線香の煙が漂っていました。



萬燈会供養

私達のご先祖の「御霊」にまごころのともし火を捧げ、報恩感謝のご供養をする萬燈会供養の起源は、信心深い姉妹による、父母の追慕供養にあるといわれています。両親を亡くしたばかりの二人は、お釈迦様の説法を聞いて父母の追慕供養をしたいと願いましたが、お釈迦さまをお迎えする火をともし油を買うお金がありません。二人はわが身の一部の黒髪を切り取って買い求めた、僅かばかりの油をもって灯明をともしました。お釈迦さまがお話を始めますと、バラモンのダイバダッタが邪魔しようと大風を呼び、捧げられた全ての灯明を吹き消しました。しかし、二人が捧げた灯明だけは消えずに益々輝きを放ち、バラモンは退散します。やがて二人はお釈迦さまに救われ、須弥灯光如来という仏様に生まれ変わり、三世の諸仏・有縁無縁の精霊をお護りしています。

曹洞宗宮城県第一教区主催の萬燈会供養は、秋彼岸の最終日に寺院持ち回りで行われています。松源寺は約二〇年前に会場となりました。第三六回を迎えた今年も、九月二十六日に圓福寺で行われました。松源寺のご住職が司会を務めました。このご供養は、日頃行われる法要とは違い、夜に行われる珍しい法

要です。法堂が無数のロウソクの燈火に囲まれ、柔らかな光を湛え幻想的な情景が浮かび上がります。



萬燈会供養 圓福寺





本をよむ 第1回 震災メメントモリ — 第二の津波に抗して (金菱清・新曜社) 本体 2,400 円+税

松源寺は、今年3月11日に第1回「3・11を忘れない 祈りの集い」を開催し、『3・11 慟哭の記録』の朗読会を行いました。その編著者・金菱清先生は、松源寺においでになりイベントに参加してくださいました。その先生の最新刊本ができましたのでご紹介します。



「メメントモリ」は「死を忘れるな」という意味のラテン語です。この大災害からの復興方法は、被災地にこそ生まれてきています。被災地に足を運び、被災者にこそ問う学ぶことで真の復興への道が見えてきます。科学と経済に頼り、高速復興を図る姿は、この震災に何も学ばない姿勢であることを痛烈に喝破します。「現在の科学は生者と死者の関係性にきわめて鈍感である」と。生と死を受け止める社会・文化的装置に関する日本とブータンの違いを紹介しながら、被災地において、悲しみから回復するためには宗教的儀礼のみではなく、擬似的な社会・文化的装置によって補完されることが起こっていることが報告されています。東日本大震災からの復興と、その風化の軋みがあらわになってきた被災地に思索し、被災者に寄り添い実践する、金菱清先生の力作をぜひ手に取ってお読みください。

東日本大震災からの復興は、まだまだこれからです。様々な動きに注目して参りましょう。

たいてん和尚のタッチダウン

松源寺現住職の東海泰典さんは駒澤大学アメリカンフットボール部の選手でした。凛々しいですね。和尚の言葉をお檀家の皆様届けたいと願っている編集部は、これにちなんで「タッチダウン」のコーナーを設けることにしました。さて今回は。



「touchdown タッチダウン」とは得点が6点入る事で、ラグビーでは try トライと言います。また米軍では戦闘機が着艦する事をこう呼んでいます。

今年も松源寺の行事は11月4日の祠堂講法要でタッチダウンとなります。振り返れば3月11日に東日本大震災慰霊法要と朗読会を開催し、僅か9日後の20日に当山34世の遷化。密葬・49日法要と執り行い、100ケ日に当たる6月27日に本葬儀を行いました。この一連の法要では檀信徒の皆様方には温かい弔意を賜り、衷心より感謝申し上げます。8月の施食会では、当山先住をはじめ新盆を迎えた新亡精霊のご供養を致しました。9月には婦人会主催の「月見コンサート」を実施致しました。多くの方々にお集まりいただき、年に一度の観音堂ご開帳供養ではお手合わせ頂きました。10月には檀信徒研修旅行を企画致しておりますので、この機会に是非ご参加頂きたいと存じます。

第4号は平成二十七年一月発行予定です

＊ 禅の小窓 3 ＊ 嫡々相承 ＊

松源寺通信 — 永松だより
発行所 蕃山房
〒980-0801
仙台市青葉区木町通一丁目11
朝日プラザ北一番丁1階106B
電話 090-8250-7899
FAX 022-224-5308
*情報のご提供、ご意見、ご質問などは、蕃山房にお寄せくださいますようお願い申し上げます。

平成27年1月までの行持予定
10月23日〜24日 松源寺研修旅行
水沢正法寺【先住職供養】参拝とわらび座「げんない」観劇と鶯宿温泉
正法寺は、岩手県奥州市水沢区黒石町にある曹洞宗の寺院です。かつては大本山の永平寺、總持寺に次ぐ第三本山と呼ばれていました。1990年(平成2年)9月11日には、本堂にて先住職様供養を行います。詳細は松源寺にお問い合わせください。
11月4日午前10時30分 祠堂法要
祠堂法要とは、祠堂位牌の方(本堂裏手の祠堂に安置されている位牌)のご供養を行います。昼食後散会の予定です。
12月8日 釈尊成道会
12月8日は、お釈迦様が真理に目覚めた日です。真理に目覚めるに至る八日間のお釈迦様の修行をしのぶ日なのです。
1月1日〜3日 三朝祈禱

松源寺本葬収支決算書
収入の部 35,256,718
支出の部 35,256,718
収入
寺院香資 6,950,000
親族・檀信徒香典 8,723,190
東海家 5,000,000
松源寺 14,583,528
35,256,718
支出
寺院恩謝等 14,710,000
葬儀費用(霊柩車他) 1,542,250
密葬・法要・本葬引物 5,659,692
東海家引物 2,484,000
法要飲食関係 6,873,225
通信・印刷関係 463,386
本葬工事費 3,524,165
35,256,718